

第428回鉄鋼流通問題懇談会

2014年2月21日（金）14：30

日本鉄鋼連盟4階・第1会議室

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
 - （1）地区の状況
 - 東京、大阪、愛知、東北、三重地区概況報告
 - （2）その他地区の概況
 - 鉄流懇2月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
 - （3）総括：齊藤全鉄連副会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2014年5月21日（水）14：30 ～

於：

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2014年2月）

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
		伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	兼松
1. 需給動向（景況感）		消費税増税前の駆け込み需要、景気回復に伴う設備投資増などを受けて、流通各社の鋼管の荷動きは活発化している。高炉メーカーによる減産実行、母材コイルの逼迫感から溶接管が供給タイトとなっていることから、市況が足許上伸している。	2013年12月末の国内向け薄板3品在庫（速報値）は382.7万トンとなり、前月比+0.2%の微増となった。これは鉄鋼メーカーと需要家の稼働日の相違による季節パターンを踏襲した例年の傾向であり、各ミルともにフル稼働の状況が続いているものの、自動車、建設など各分野の活動水準は引き続き高く、コイルセンター在庫では一部品種で欠品もあり、需給タイト感に変わりはない。これからは4月の消費税増税後の国内需要を見極めた慎重な対応が必要となる。	12月末の厚板在庫は366千トンで前月比5千トン増。在庫率も193.7%と6.4ポイント増えた。稼働日数の減少があるものの、全体的に荷動きに一服感が広まった。敷板は品不足感があるが、全体的な品不足感には至っていない。建築需要は堅調だが、工事遅延の影響で需要が先送りになっている。	棒鋼：鉄スクラップ価格の下落により、ゼネコンは様子見状態で新規の引き合いは低調となっている。各電炉メーカーは、厳しい採算状況が続く中、踏ん張りどころにあり、市況は膠着状態となっている。形鋼：足元の荷動きは、工事の遅れ、季節的要因もあり、低調となっており、市場にタイト感はなく、相場は一服状態となっている。しかしながら、先行きの建築需要は堅調にあり、採算的にさらなる市況上伸が望まれる。
2. 需要産業動向		建築関連では、消費税増税前の駆け込み需要旺盛で、住宅着工戸数も前年度増加となり、住宅メーカー及び関連資材メーカーは好調推移。自動車向けも国内/消費税増税前の駆け込み需要と輸出/米国向け輸出車増を背景に好調。又、造船需要も円安進行と環境対応により受注回復。産業機械も企業が設備投資に前向きになりつつあり、自動車などの部品加工の工作機械が底入れしている。一方、建機関連は国内販売は堅調ながら、鉱山用大型建機は低調継続。国内プラント関連も低調状況が続いている。	2013年12月の国内四輪車生産台数は78万7千台で、前年同月比+86千台(+12.2%)の増加となり、4ヵ月連続で前年同月を上回った。2013年後半は、景気の回復に加え、新型車投入・モデルチェンジ効果や、消費税率の引き上げを控えた駆け込み需要により、市場は前年を上回り、通年では前年並みの水準となった。民生用電気機器の2013年12月の国内出荷金額は2,422億円で、前年同月比112.7%となり、7ヵ月連続のプラスとなった。消費者の省エネ製品への関心が継続していることに加え、住宅着工戸数の伸びに後押しされ、換気扇、食洗機等、住宅関連製品も好調に推移している。12月の新設住宅着工戸数は、前年比18.0%増の8万9578戸となり、16ヵ月連続で増加した。また季節調整済み年率換算は105万5千戸となった。2013年の新設住宅着工戸数は、前年比+11.0%増の98万戸となり、4年連続の前年比増となった。	造船の12月手持工事量は2,643万G/Tで前月比127万G/T増。円高修正の影響からか輸出船の契約量も増加。建設機械の12月出荷金額は、内需は前年同月比29.0%増(810億円)、外需は19.0%増(1,172億円)、総合計は22.9%増(1,982億円)で5ヵ月連続の増加。産業機械の12月受注金額は合計で前年同月比94.3%(3,964億円)、内需は94.4%(2,491億円)、外需は94.0%(1,473億円)となり、建機ほどの盛上りはない。建築・土木は人手不足、加工能力不足、輸送手段不足があるものの底堅い需要が続いている。	棒鋼：2013年12月の新設住宅着工戸数は、前年同月比18.0%増の8万9578戸で、16ヵ月連続で増加した。持家は、同19.1%増、貸家は同29.8%増、分譲住宅は同2.1%増でいずれも堅調に伸びた。非住宅における建築着工床面積は、前年同月比10.0%増の1264万㎡で、16ヵ月連続で増加した。公共建築主は70万㎡で2ヵ月連続の増加、民間建築主は1194万㎡で16ヵ月の連続の増加となった。形鋼：2013年暦年の建築鉄骨需要は推計で前年比15.9%増の約532万トンに伸長、構造別では、S造が15.1%増、SRC造が42.1%増とそろって好調を維持。
3. 輸出入動向		2013年12月度の鋼管輸出量は継目無鋼管で10.8万t(前月比+12%)、溶鍛接鋼管12.9万t(前月比+12%)。一方、鋼管輸入量は継目無鋼管で0.2万t(前月比△16%)、溶鍛接鋼管1.8万t(前月比△8%)となっている。	2013年12月の普通鋼鋼材輸入量は40.7万トン、前年同月比で13.2%増と2ヵ月連続の増加となった。薄板の品種別では、熱延14万トン(前年同月比+4.7%)、亜鉛めっき鋼板6万トン(同+22.6%)と前年同期比増傾向にあるが、冷延は8.3万トン、同▲6.3%と2ヵ月振りの減少となっている。また仕入先別では、韓国(27.4万トン、前年同月比+1.2%)が2ヵ月連続の増加、台湾(8.3万トン、同+39.9%)が6ヵ月連続の増加、中国(4.6万トン、+83.3%増)が22ヵ月振りの増加となっている。	12月の輸入実績は58千トンで前月比11.7%(6千トン)増。前年同月比では55.4%増。中国からの輸入が倍増(6千トン増)となった。輸出船積実績は251千トンで前月比12千トン増となった。	輸入：H形鋼の2013年12月の輸入量は7937トンで前月比32%の大幅減となった。昨年来最多となった11月(11684トン)との比較により、大幅な減少となったものの、前年同月比では169%の大幅増。平均単価は、67416円/トンで前月比では4581円の大幅な値上がりとなった。輸出：H形鋼の2013年12月の輸出量は26319トンで前月比14%の減少となった。また、前年同月比でも43%の大幅減。平均価格は72021円/トンで前月比3185円の大幅な値上がりとなった。異形棒鋼の2013年12月の輸出量14855トンで前月比5%の増加となった。平均価格は、59419円/トンで前月比4101円の値上がりとなった。
4. 海外市場動向		油井管：石油・ガスの需要は引き続き堅調に伸びており、油ガス田の掘削活動（リグ数）は中近東を初め世界各地で増加している。これを受けて油井管の需要も伸びているが、近年、中国、北中南米、サウジアラビアなどで新たなOCTGミルが稼働開始したことから、供給過多気味となっており、需給は緩んでいる。 ラインパイプ：大型プロジェクト案件の結果待ちの状況が続いており、結果次第ではタイト感が強まる可能性あり。	米国FRBは景気回復の足取りが確かになってきたことから量的緩和の縮小を決定した。また欧州でも景気回復の度合いを強めているように、世界経済は穏やかな回復が続いている。一方中国経済は年後半以降、再び持ち直して来ているが、公共投資による景気下振れリスクを回避する方向性を打ち出すことで、今後の政策動向に注視が必要である。鉄鋼需給を見ると、中国国内の粗鋼生産は2013暦年では7億7,904万トンと前年比+7.5%と高水準で推移しており、世界的な生産能力過剰が引き続き懸念されるが、中国政府が鉄鋼業の構造改革への取組姿勢を見せていることから、今後の動向に注視していく必要がある。	中国市況は供給過剰感が強いことから依然低迷。環境対策への取組みも進展なく、春節明けに市況上昇が期待されたが、需要に力無く、小幅下落が続く。	韓国国内の建築需要は低迷しており、輸入材の流入により市況は軟化傾向にある。棒鋼の流通価格は、660,000ウォン/トン(63,200円/t)水準で市中在庫は増加しており、市況下落が不安視されている。H形鋼の流通価格は、810,000ウォン/トン(77,600円/t)で値下げ基調となっている。輸入材(中国産)は、650,000～660,000ウォン/トンで取引されている。
5. トピックス					北海道において鉄筋棒鋼を生産、販売を行っている新北海鋼業(株)が3月末を目途に事業活動停止と一部営業権譲渡について検討を開始する事を発表。